

# 登別市地域おこし協力隊 活動報告



令和4年度から『登別市地域おこし協力隊』として着任し、熱いハートとアイデアを持って地域や行政と協力しながら活動する協力隊員のこれまでの活動内容を紹介します。

## 関係人口創出活動

関係人口コミュニティマネージャー：新村のりこ

『登別のドアを開こう』をテーマとしたInstagram『Doors. noboribetsu』を開設し、登別の暮らしに関する情報を発信してきました。

イベントとしては、登別のファンになってもらい遠くからでも応援してもらいたいという思いから、令和4年12月に『クリスマスマルシェ』を開催し、市外から出店した事業者と登別市民との交流の場となりました。

## 企業誘致活動

関係人口コミュニティマネージャー：小荒尚幸

日本工学院北海道専門学校に開設したサテライトオフィスe'nの周知および利用促進のために関係人口コミュニティマネージャー新村氏が作成したチラシを、道内のワーキングスペース（札幌市『HOKKAIDO x Station01』）や観光協会（札幌市、北見市、上士幌町など11市町）に設置しました。

その他、地方創生に力を入れている企業である(株)スノーピークが主催する『LIFE EXPO』に参加し、イベントの参加企業などと交流を図り、サテライトオフィスe'nや市内の地域資源についてPR活動を行いました。

## 観光振興活動

登別観光マネージャー：美黄孝善、西館香織

登別観光マネージャー美黄氏は、外国語などの能力を活かし、サンライバスキー場体験やスノードライブ体験での通訳や海外からの視察団の対応などを行ったほか、市民会館にて韓国料理教室を実施しました。

登別観光マネージャー西館氏は登別の強いイメージである温泉や鬼以外の魅力も見つけるため、現地に足を運びながら『観光のまち・登別』をSNSにより情報発信しています。

関係人口コミュニティマネージャー新村氏が企画し、令和5年3月に日本工学院北海道専門学校でオープンした地元食材の魅力を再発見する1日限定カフェ『ジモトのモド』において、のぼりべつ牛乳と胆振地域の食材で『カカオミルクティー』を提供しました。

## ふるさとと納税に関する活動

ふるさとPRコーディネーター：須藤睦子

登別市の情報発信をはじめ、ふるさと納税返礼品に関する情報発信を行うため、ふるさと納税公式Instagramを開設したほか、道内外での対面型イベントに参加し、登別市およびふるさと納税のPR活動を行いました。

また、現地決済型ふるさと納税『チョイスPay』の加盟店増加や新規返礼品の開拓を目指すための事業者訪問を行いました。



▲高さ約6メートルにもなる『エンマ大王からくり山車』



▲鬼の面を付けて『鬼踊り大群舞』に参加する市民や観光客

## 地獄の鬼の祭典、4年ぶりに開宴

### 第60回登別地獄まつり

8月25日から27日まで、登別温泉街で『第60回登別地獄まつり』（市、登別国際観光コンベンション協会主催）を開催しました。

コロナ禍を経て4年ぶりの開催となった今回は、3日間に渡って祭りが行われ、国内外から延べ約6万2千人が集結。

初日の『エンマ大王前触れ行列』を皮切りに、温泉街がお祭りムードに一変。2日目以降は、子どもたちによるオニッコマーチングバンドや登別の郷土芸能である熊舞などの演目が行われました。

地獄まつり定番の『エンマ大王からくり山車』では、エンマ大王の表情が変わる度に歓声が上がリ、重さ約1トンのみこしを若者が担ぐ『鬼みこし暴れ練りこみ』では、担ぎ手と観客の掛け声が一体となり、会場のボルテージが一層高まりました。

最終日に行われた『鬼踊り大群舞』は市内の企業や観光客など総勢約600人が鬼のお面や法被などを着用して参加し、登別地獄ばやしに合わせて踊りました。祭りの最後を飾った『ファイナル花火大会』は盛大に沸いた祭りのフィナーレにふさわしい特大の花火で夜空を彩っていました。